

# 熊本地震で「道の駅」が防災拠点 として果たした役割

平成28年5月



九州・沖縄  
「道の駅」連絡会

# 1. 熊本地震の概要

熊本地震	
発生日時	平成28年4月14日(21時26分) 平成28年4月16日( 1時25分)
震度(最大)	7
種類	内陸型地震(直下型地震)
【概要】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月14日に深さ約10kmでマグニチュード(M)6.5の地震が発生。</li> <li>・4月16日に同地方の深さ約10kmでM7.3の地震が発生。</li> </ul>	
【被害特徴】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・強い揺れが何度も起きたことで、住宅への被害や土砂崩れなどの地盤災害に伴う被害が数多く発生した。</li> <li>・道路は、南阿蘇村にある全長約200メートルの阿蘇大橋が土砂崩れで崩落したほか、生活道路の多くが寸断される等、<b>高速道路をはじめ、国道、県道等多くの区間で通行不能となった。</b></li> </ul>	



地震で倒壊した熊本城の北十八間櫓(くまにちコム)



## 2-1. 熊本地震における道の駅の被災状況(道の駅大津)



### 【道の駅大津】



吊り下げ柱が落下



棚や机にあったものが床に散乱



壁際にあったものが転倒



棚や机にあったものが床に散乱

## 2 - 2 . 熊本地震における道の駅の被災状況 (道の駅阿蘇)

### 【道の駅阿蘇】



落下した吊り看板



落ちた商品が床に散乱



落ちた商品が床に散乱



棚の中身や机の上にあったものが床に散乱

## 2 - 3 . 熊本地震における道の駅の被災状況 (道の駅旭志)



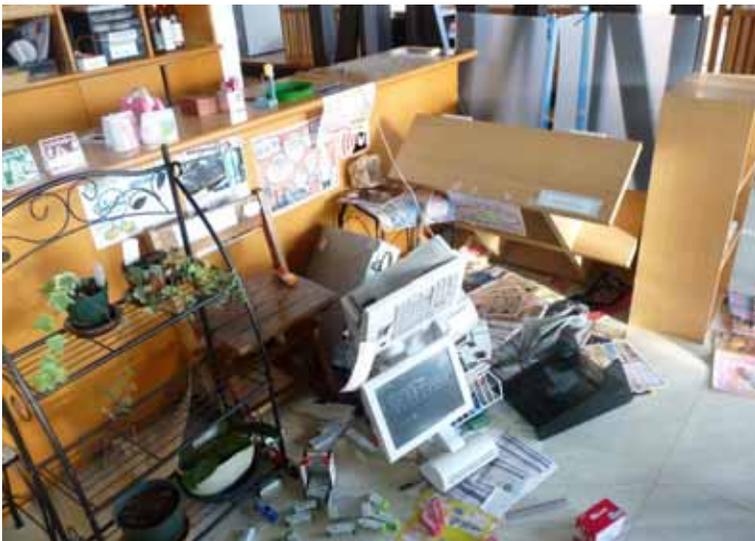
### 【道の駅旭志】



天井梁が落下



食堂内の壁が落下



レジスタが転倒し、落下



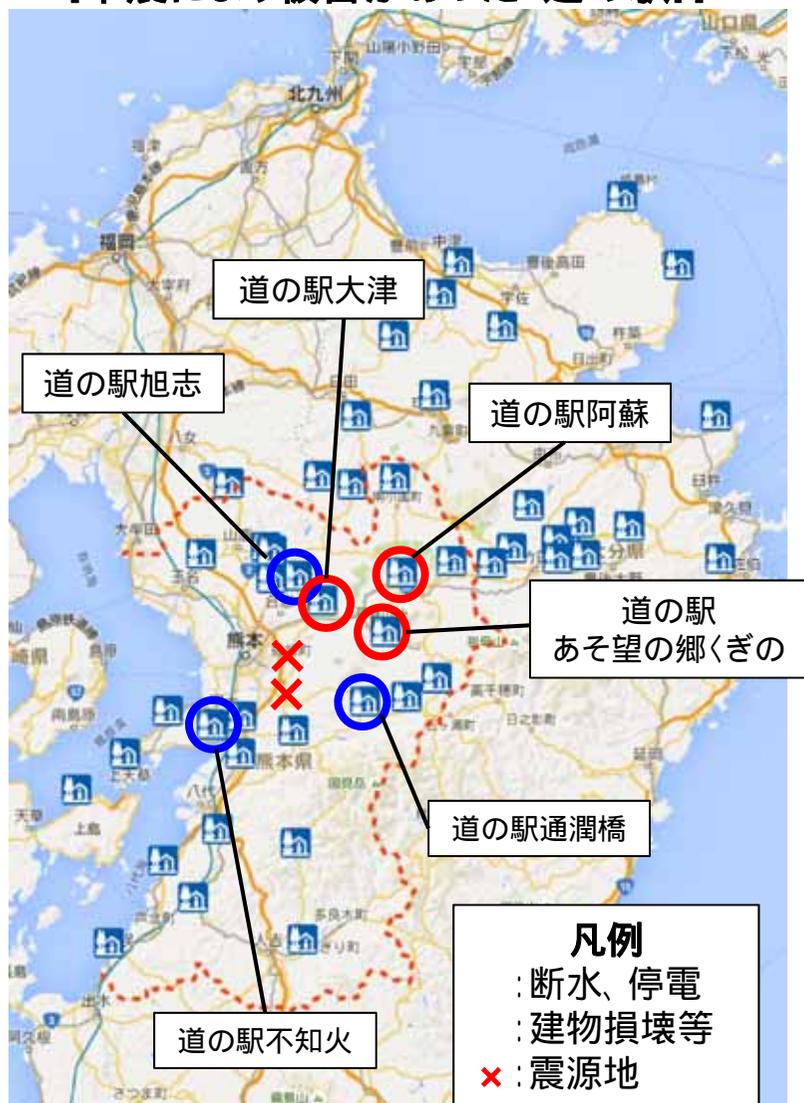
棚の上にあった瓶が床に散乱

## 2-4. 熊本地震における道の駅の被災状況(まとめ)



熊本地震により、熊本県内の「道の駅」6駅(28駅中)が大きく被害を受けた。

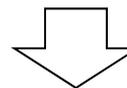
【本震により被害があった「道の駅」】



< 主な被災「道の駅」 >

	駅名	被災内容(4/16本震後)
熊本県	道の駅大津	断水(トイレ利用不可)
	道の駅阿蘇	断水(トイレ利用不可) 停電
	道の駅あそ望の郷くぎの	断水(湧水使い、トイレ使用化) 停電
	道の駅旭志	天井の梁が落下
	道の駅不知火	天井板の剥がれ
	道の駅通潤橋	駐車場のひび割れ

陳列商品の破損は、上記、「道の駅」で発生。



4/26より、熊本県内の全ての駅で営業再開

### 3 - 1 - 1 . 近年、発生した地震の概要 (中越地震)



中越地震	
発生日時	平成16年10月23日 (17時56分)
震度(最大)	6強
種類	内陸型地震(直下型地震)
概要	川口町を中心にマグニチュード(M)6.8の直下型地震が発生、その後1時間以内にM6.0以上の余震が3回発生し、さらに活発な余震活動が続いた。
被害特徴	・中山間地域を震源とする地震であり、震源地付近は日本有数の地すべり地帯であったことから、斜面の崩落などの地盤災害に伴う被害が発生した。 ・道路は、斜面崩落によって <u>生活道路の多くが寸断されたため、山間地域に点在する多くの集落が孤立した。</u>



土砂崩れにより道路が寸断



大規模な崩落が発生  
(三ヶ地区牛舎裏)

## 3-1-2. 中越地震で「道の駅」が果たした役割

- ・道路利用者や近隣住民の一次的な避難場所
- ・道路情報、避難所情報等の提供
- ・飲食品の無料配布、炊き出し
- ・温泉施設の無料開放
- ・支援物資の集配基地、災害復旧車両の中継地



避難場所として活用  
(道の駅「越後川口」)



給水基地を設置  
(道の駅「クロス10十日町」)

### 3 - 2 - 1 . 近年、発生した地震の概要 (東日本大震災)

東日本大震災	
発生日時	平成23年3月11日 (14時46分)
震度(最大)	7
種類	海溝型地震
概要	三陸沖震源とするマグニチュード(M)9.0 の巨大地震。津波を伴い広範囲に甚大な被害を及ぼした。
被害特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・津波により、広範囲にわたって甚大な被害が発生した。</li> <li>・道路は、道路橋の流出や法面崩落等により、宮城県仙台市から三陸沿岸地域を縦走する国道45号を始め、東北地方を中心に<b>太平洋側一帯沿岸部における道路の被災が激しく、国道、県道等多くの区間で通行不能となった。</b></li> </ul>



津波により道路が寸断



道路路面の崩壊(国道6号)

### 3 - 2 - 2 . 東日本大震災で「道の駅」が果たした役割

- ・道路利用者や近隣住民の一次的な避難場所
- ・道路情報、避難所情報等の提供
- ・飲食品の無料配布、炊き出し
- ・自衛隊の前線基地や消防、警察の搜索拠点、救援物資の中継基地



自衛隊の前線基地として利用  
(道の駅「津山」)



避難場所として利用  
(道の駅「ひらた」)

## 4. 災害において「道の駅」に求められる役割

災害発生後、「道の駅」に求められる役割は、時間の経過に伴い、

緊急避難対応(避難場所の提供、飲食品の提供、炊き出し)

災害復旧対応(前線・中継基地、支援物資の集積地)

災害復興支援(地域の生活復興支援(地域振興施設の再開)) へと変化

### 役割

#### ①緊急避難対応

- ・一次避難場所の提供
- ・トイレの提供
- ・情報の提供
- ・飲食品の提供(炊き出し等)
- ・日常生活用品の提供

#### ②災害復旧対応

- ・前線基地の設置
- ・中継基地
- ・支援物資の集積地の設置

#### ③災害復興支援

- ・地域振興施設の再開

災害発生

時間経過

## 5 - 1 . 熊本地震において「道の駅」が果たした役割(一時避難場所)



広い駐車場、敷地がある「道の駅」は一時避難場所として利用。



道の駅「あそ望の郷くぎの」に隣接するアウトドアショップより、避難者へのテント、寝袋等の貸し出しが行われ避難場所として活用された。(テント設置数は、約30張)

## 5 - 2 . 熊本地震において「道の駅」が果たした役割 (車中泊の場所)



震災後、余震が頻繁に続くため、広い駐車場、24時間トイレが使える「道の駅」は、車中泊の場所として利用。



道の駅「大津」の駐車場は地震発生直後、昼夜を問わずほぼ満車



道の駅「うき」駐車場の早朝の状況



道の駅「大津」駐車場の夜間の状況



道の駅「竜北」駐車場の夜間の状況

飲食料品、日用生活用品等を無料配給し、被災者を支援



道の駅「大津」では、ブルーシート130枚、水2 : 2000本、離乳食・オムツ・生理用品を提供した。



道の駅「あそ望の郷くぎの」では、電気復旧後、近くの避難場所に「パン」、「おにぎり」等を提供した。



道の駅「阿蘇」、「ゆふいん」では、近くの避難場所に、道の駅で販売している米、野菜の食材や「おにぎり」、「お弁当」等を提供した。

## 5 - 4 . 熊本地震において「道の駅」が果たした役割(販売商品の提供)

### 「道の駅」の販売商品を無料配給し、被災者を支援



道の駅「大津」



道の駅「あそ望の郷くぎの」



道の駅「大津」



道の駅「あそ望の郷くぎの」

## 5 - 5 . 熊本地震において「道の駅」が果たした役割 (炊き出しの実施)



### 「道の駅」において、炊き出しを実施し、被災者を支援



道の駅「あそ望の郷くぎの」では、水や食材が豊富にあったため、炊き出しを7400食、実施。



被災後、道の駅「大津」では、テナント会社社長の発意から、1200食分の炊き出し(豚汁・御飯:1000食、豚汁200食)を実施。



道の駅「旭志」では、いち早く施設を再開させることが重要との駅長の考えから、他の施設よりもいち早く道の駅を再開し、肉が豊富にあったため、800人分の“焼きだし”を実施。

## 5 - 6 . 熊本地震において「道の駅」が果たした役割 (前線基地の設置)



被災地に近く、広い敷地をもつ「道の駅」は、自衛隊の被災地救援の前線基地として活用。



地震により南阿蘇村の道路が通行止めとなり、熊本市内から物資搬入ができないため、道の駅「あそ望の郷くぎの」においては、自衛隊が炊き出し、避難所への食料配布を実施。

ヘリコプターの離発着場としても活用

## 5 - 7 . 熊本地震において「道の駅」が果たした役割(TEC-FORCEの本部を設置)



被災地に近く、広い駐車場をもつ「道の駅」に緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)の災害対策本部を設置。



対策本部車



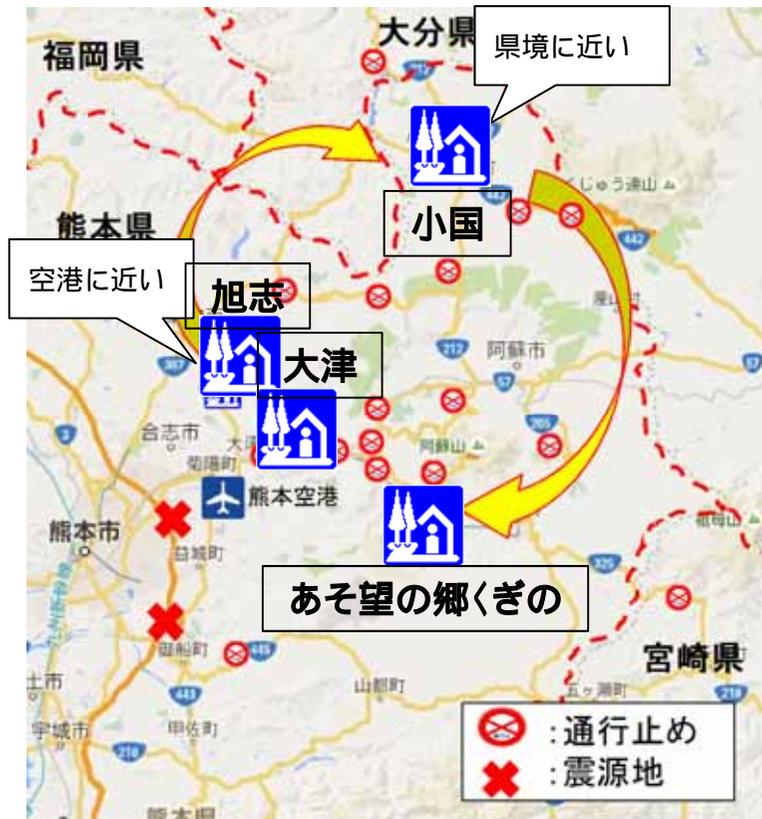
「道の駅」菊水に緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)の災害対策本部を設置



対策本部車・待機支援車

## 5 - 8 . 熊本地震において「道の駅」が果たした役割 (中継基地)

「道の駅」の駐車場は、被災地へ向かう支援車両や緊急車両の中継基地として活用



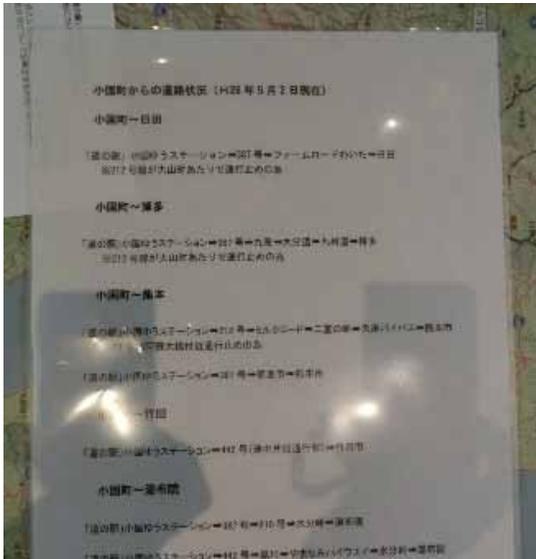
自衛隊や緊急車両が、被災地支援へ向かうにあたり、道の駅「小国」は、県境に近い「道の駅」であることや、道の駅「大津」、「旭志」は、熊本空港に近い位置にあることから中継地点として利用された。



# 5 - 9 . 熊本地震において「道の駅」が果たした役割(情報提供)



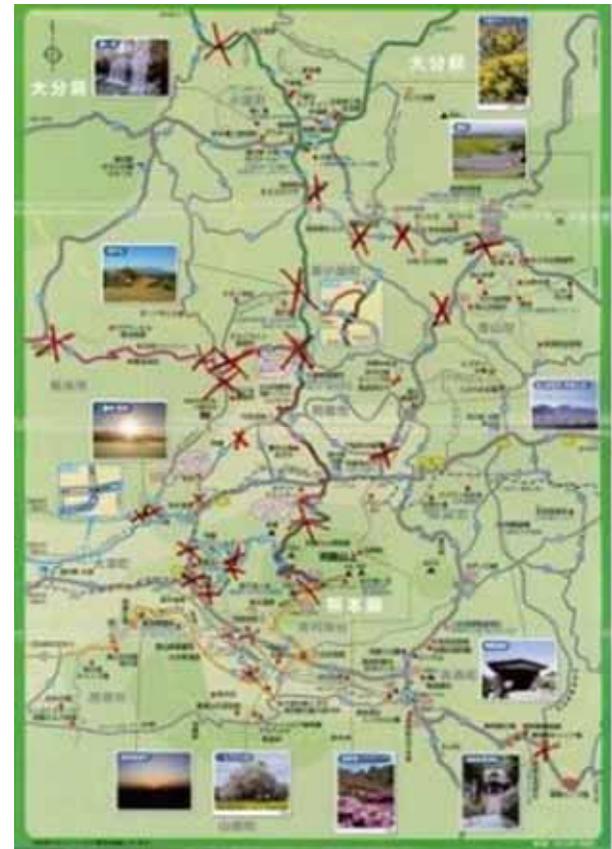
手書き地図等の配布、掲示やSNS等への情報掲載による被災箇所情報の発信。



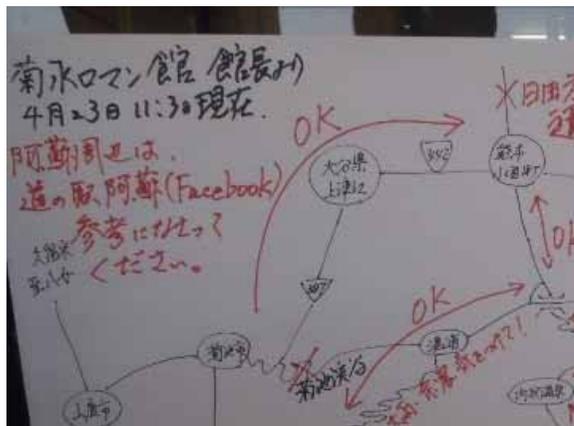
道の駅「小国」 通行情報チラシ



道の駅「阿蘇」 通行情報チラシ



道の駅「阿蘇」 通行情報チラシ  
(SNS上での提供)



道の駅「菊水」 通行情報チラシ

被災後の通行可能な道路の情報は、トヨタ車のナビ情報を集約して作られる「通れた道マップ」等の情報等を紙の地図に手書きで落とし、コピーをして配布・掲示。

「道の駅」の相互連携による被災地や被災地の「道の駅」支援が行われた。

支援物資の提供

断水や道路の寸断により流通がストップしたため、飲料水、トイレトーパー、オムツ・生理用品等の商品が不足した。そのため、九州・沖縄「道の駅」ネットワークをはじめ、道の駅「せせらぎの里こうら(滋賀県)」より、ペットボトル飲料やおムツ、生理用品等の支援物資の提供があった。



九州・沖縄「道の駅」ネットワークによる支援物資 4/18提供  
(お茶ペットボトル3000本)

道の駅「せせらぎの里こうら(滋賀県)」からの支援物資 4/22提供  
米300kg、ティッシュペーパー、水、おむつ等)

特産品等の販売協力・支援

被災後、通行車両、観光客の激減により、いくつかの道の駅では、その存続が危ぶまれている。そのため、九州・沖縄「道の駅」連絡会の呼びかけに応じるものとして、4/29 道の駅「せせらぎの里 こうら(滋賀県)」より、道の駅「大津」に対して、100万円分の商品注文が行われた。

道路情報提供での連携

道路の通行情報の案内において、別府方面の通行情報は、道の駅「ゆふいん」で、福岡・熊本方面の通行情報は、道の駅「小国」で案内する、といった形で相互連携が図られていた。



通行道路、ルート説明時に使用したチラシ(道の駅「小国」)

早期に「道の駅」を再開し、地域の生活復興支援が行われた。

### 道の駅「大津」の場合

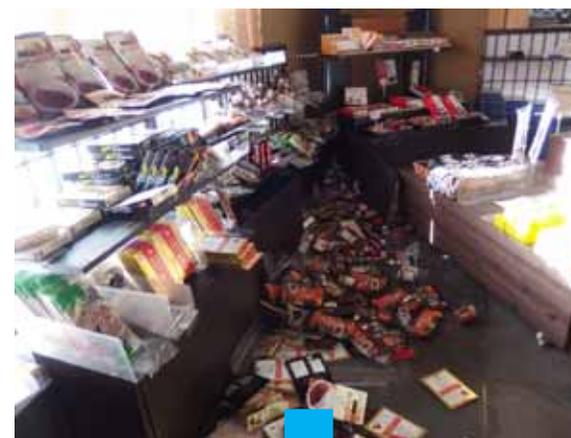
4/17:地震により被害を受ける



4/18:駐車場の店舗のみ営業再開  
4/20:本格的、営業再開

### 道の駅「阿蘇」の場合

4/17:地震により被害を受ける



4/19:営業再開



## 5 - 1 2 . 地震災害において「道の駅」が果たした役割(総括)



	避難場所の提供	トイレの提供	情報の提供	物資の提供	炊き出しの提供	支援基地の設置	関係組織との連携	備考
中越地震								仮設住宅の建設
東日本大震災								
熊本地震								



**これまでの教訓を活かして「道の駅」は、災害時、被災地支援に確実に貢献！**

## 6. 今回新たに果たした機能・役割(SNS、地域FM等の活用)



SNS、地域FMを活用し、被災地域内外への情報発信・拡散を行った。  
これにより情報が迅速に伝達され、被災者が必要な支援を得やすくなった。



道の駅「大津」のFacebook

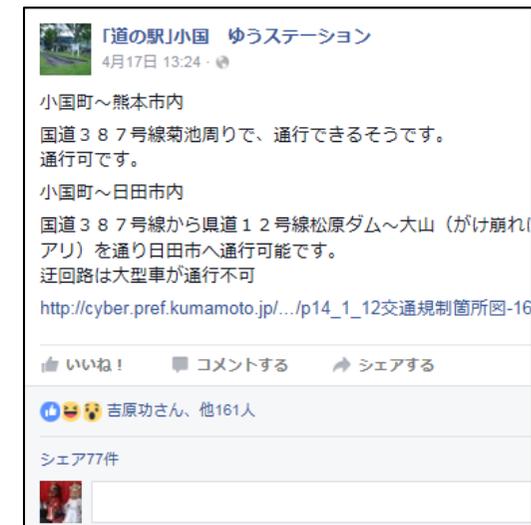
道の駅のHPよりも、スマートフォンを活用すれば情報掲載が簡易である、との理由から、情報発信媒体として、FacebookやツイッターといったSNSが多く活用された。



道の駅「阿蘇」のFacebook



道の駅「旭志」のFacebook



道の駅「小国」のFacebook



被災後、道の駅「小国」から  
地域FMによる情報発信



道の駅が防災拠点として機能するためには、防災施設・設備だけでなく、災害時におけるソフト面の準備も必要。

- ・防災拠点として機能させるためのハード・ソフトの整備
- ・「道の駅」の地域防災計画等における位置づけの明確化や大規模災害時協定の締結
- ・発災後3日は、自主的に活動できる体制の構築



地域防災計画に防災拠点として位置づけされている(道の駅「みかも」)



道の駅「みかも」での防災訓練風景



道の駅「うき」での建設中の防災施設(防災トイレ・地下燃料タンク)の工事見学会

## 8 - 2 . 「道の駅」が防災拠点として機能するための施設 (例)



災害時でも、水、電気、トイレ等を使うことができるよう施設整備を行っておくことが重要

< 必要と考えられる施設 (例) >

【受水槽の設置】



【太陽光発電施設の設置】



【自家発電機設置】



【防災トイレの設置】



【炊き出し設備の準備】



【日常生活用品の備蓄】



- ・行政等との連携強化
- ・駅長、駅員等の自助努力に依存しない体制の構築
- ・震災後の道の駅のゴーイング konsern



4/20 被災後 開設



4/23 被災後 数日経過



5/4 連休中  
(道の駅大津)

# 【参考】道の駅における防災設備の状況

## 代表的な防災設備の例



情報装置



非常電源



貯水槽



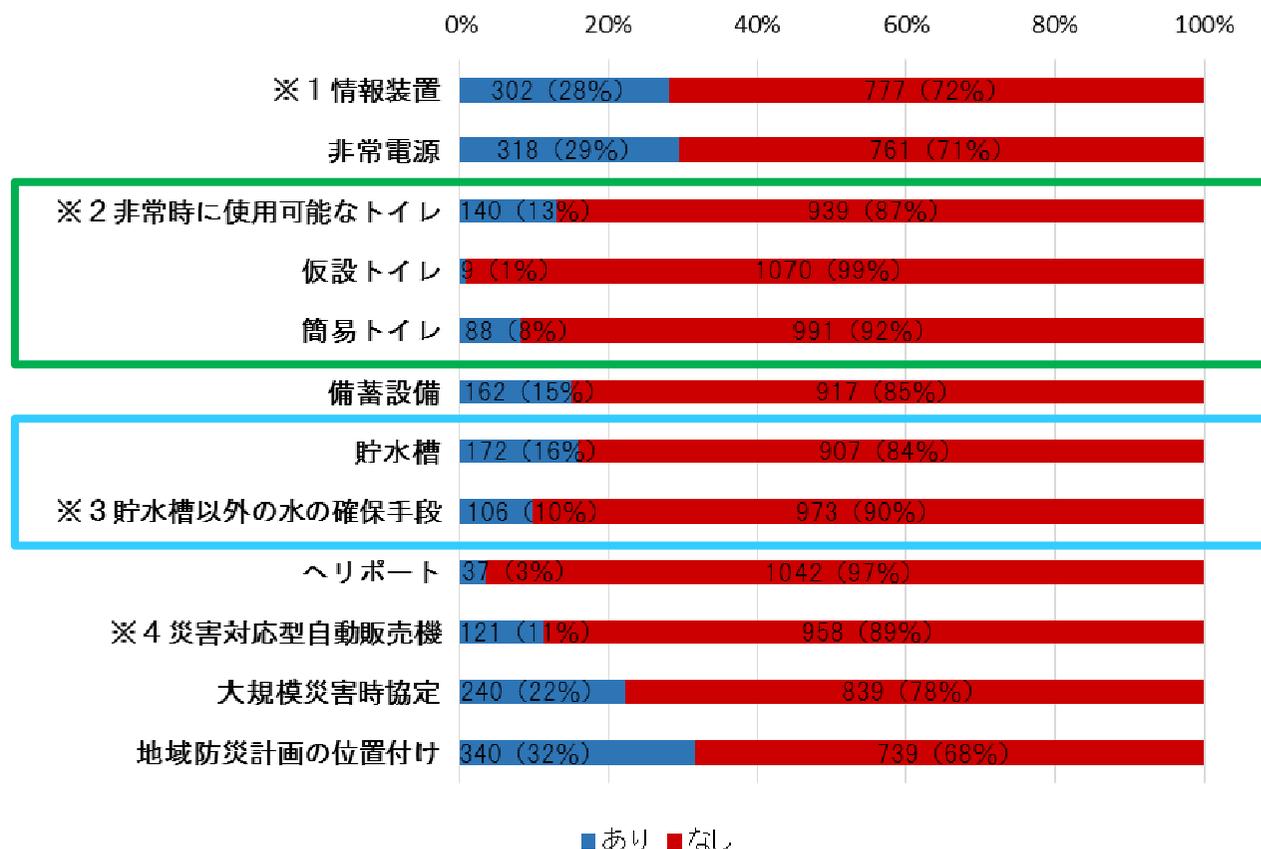
備蓄設備



簡易トイレ



仮設トイレ



1大規模災害時に使用できる情報提供装置：大型モニター、道路情報版、MIB(LED表示ボード)等

2災害時に使用可能なトイレ：井戸水等により、災害時でも利用が可能

3貯水槽以外の水の確保手段：井戸、雨水等の受水槽など

4災害対応自動販売機：災害発生時に、自動販売機に搭載された電光掲示板に災害情報を流したり、本体に残っている飲料を無償で提供したりできる自動販売機